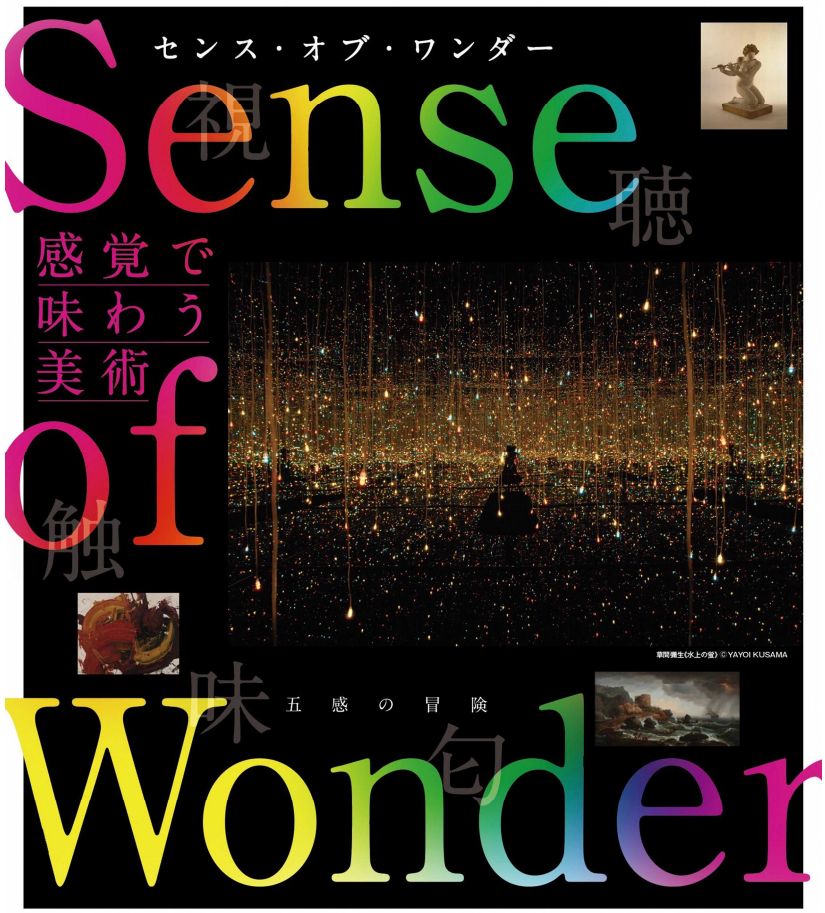
「センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術」

２０２３（令和５）年４月１８日（火）～７月９日（日）



概 要

五感による作品鑑賞の楽しみをコンセプトとする展覧会です。多くの芸術作品は視覚による鑑賞を基本とします。本展では、視覚以外の感覚器官（触れる、聴く、匂いを嗅（か）ぐ、味わう）に直接働きかけたり、また過去に経験した感覚の記憶を呼び覚ますことや、未経験の事柄を五感で想像することによって、作品の素材、モティーフや主題をより深く味わう鑑賞へと誘（いざな）います。

作家で海洋生物学者のレイチェル・カーソンは、「センス・オブ・ワンダー（＝神秘さや不思議さに目を見はる感性）」によって自然を発見する喜びを、同名のベストセラーで綴（つづ）りました。インターネットとデジタルメディアの普及に伴い、現代では気軽かつ身近に芸術体験ができるようになりました。逆に本展は、人間がもつ感覚によって、古い西洋画から最新の美術作品まで、静岡県立美術館の多様性に富むコレクションを、楽しみながら現実（リアル）に感じていただくことを目指します。

＊2021 年. レイチェル・カーソン著、上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』新潮社（新潮文庫）を参照しました。

＊会期中、一部展示替えがあります。

見　ど　こ　ろ　を　簡　単　に　ご　紹　介　し　ま　す

◎ヴァリエーション豊かな静岡県美コレクションを、一味ちがって一挙公開！

17 世紀以降の東西の山水・風景画、県ゆかりの作家・作品、現代の美術、ロダンと近代の彫刻、そして富士山の絵画。2 千 8 百点以上にのぼる静岡県立美術館のコレクションは実にヴァリエーションに富んでいます。通常の展覧会は、これらの作品を、作風や様式、時代や国、または主題などに分類してお目にかけますが、この展覧会では、「感覚」をテーマに、ひとあじ違うアプローチを試みます。また、これまであまり展示する機会のなかった作品もご紹介します。

◎草間彌生《水上の蛍》、9 年ぶりに登場！

現代日本を代表する美術家・草間彌生（1929 年－）による《水上の蛍》を、9 年ぶりに展示します。四角い建物の扉を開け、両脇に水を巡らした通路を進むと、暗闇の中、目に飛び込んでくるのは上から吊り下がる電飾が放つ無数の光。様々に彩られた光の渦が天井の鏡と周囲の水に映るさまは、その名のとおり、水面を飛び交う蛍のようです。この作品を鑑賞できるのは、一度にただひとり。見て、聴いて、味わって…。周囲から切り離された空間で自分だけの五感に浸れるとは、なんと贅沢なことでしょう。本展を象徴するこの作品に出会えるのは、日本では静岡県立美術館のみです。

◎作品の素材やレプリカに触るコーナーも！

作品を鑑賞するだけではなく、素材やレプリカを触って理解を深めてもらいます。詳しくは、下の「展示の構成」をご覧ください。

展示の構成

◎キーワードは「五感の冒険」

それでは、キーワードとともに、展示室の構成をちょっとだけご紹介します。

1　触れる　：　美術作品はいろいろな材料から作られています。主に立体作品を出品する展示室では、これらの素材や、作品のレプリカを触るコーナーを設けます。本物の作品に触っていただくことはできませんが、素材の手触りによって作品の質感を想像したり、レプリカに触って彫刻の形を確認することができます。

2　音や匂いを思い出す、想像する　：　楽器を演奏する人物や、都市のざわめきが感じられる光景を描いた

絵画。嵐、川のせせらぎ、風の音や積雪など、四季折々の自然を表した風景画。このような作品から、心に浮かび上がるメロディー、自然の音や匂いの記憶をたどるとともに、まだ見ぬ描かれた世界への想像を膨らませることもできるのではないでしょうか。

3　実りと静物　：　「味覚」に関わる展示室では、宗教的・寓意的な意味を込めた作品を含め、自然の豊かな実りや、人と食にまつわるエピソードや食への根源的欲求を描いた作品を紹介するとともに、様々な作家による静物画を展示します。花や果物、器物などを題材とする静物画は食（味）に関連すると言えるジャンルですが、描くものの配置を画家が自由に構成できるため、彼らの視覚や視点に迫ることができます。「見る」以外の感覚による鑑賞を促す本展で、改めて「見る」という行為が浮かび上がります。

17 世紀のクロード・ロランやジャック・カロから、現代の草間彌生や名和晃平まで、

約 90 点の絵画・立体・版画等で構成する本展を、どうぞお楽しみください。

＊会期中、一部展示替えがあります。

基本情報

展覧会名　　センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術

会　　期　　２０２３（令和５）年4月18日（火）～7月９日（日）

会　　場　　静岡県立美術館　〒４２２－８００２　静岡県静岡市駿河区谷田５３－２

交通案内

・JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分。

・JR「静岡駅」南口からタクシーで約 20 分、または静鉄バスで約 30 分。

・JR「東静岡駅」南口からタクシーで約 15 分、または静鉄バスで約 20 分。

・静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約 15 分、または静鉄バスで約 3 分。

・東名高速道路・静岡 IC、清水 IC から車で約 25 分。日本平久能山スマート IC から車で約 15 分または新東名高速道路・新静岡 IC から車で約 25 分。

開館時間　　午前１０時～午後５時３０分（展示室への入室は午後５時まで）

休 館 日　　毎週月曜日

観 覧 料　　一般800円（600円）、７０歳以上400円（300円）、大学生以下は無料。

※（　　）内は２０名以上の団体料金　※ロダン館も併せてご覧いただけます。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者１名は無料。

主　　催　　静岡県立美術館

会期中イベント

学芸員によるフロアレクチャー

日時：5月6日（土）、21日（日）、6月17日（土）　14：00～（30～40分程度）
集合場所：当館企画展第１展示室　要観覧料・申込不要

館長美術講座「身体巡礼―感覚の僻地へ」

講師：木下直之（当館館長）
日時：6月4日（日）　14：00～15：30
会場：当館講堂　聴講無料、申込不要、先着順。定員は当館ウエブサイトでお知らせします。

実技講座

講師：柳本一英氏
日時：5月27日（土）、6月3日(土)
＊要申込。詳細は、個別ちらし、または当館ウエブサイトをご覧ください。

わくわくアトリエ

講師：野呂美樹氏
日時：6月11日（日）
＊要申込。詳細は、個別ちらし、または当館ウエブサイトをご覧ください。

＊内容・開催方法の変更の可能性があります。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】

静岡県立美術館　担当：学芸課　南　／ 総務課　深澤

住所　〒422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田 53－2

TEL　054-263-5857　　FAX　054-263-5742

E－Mail　webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

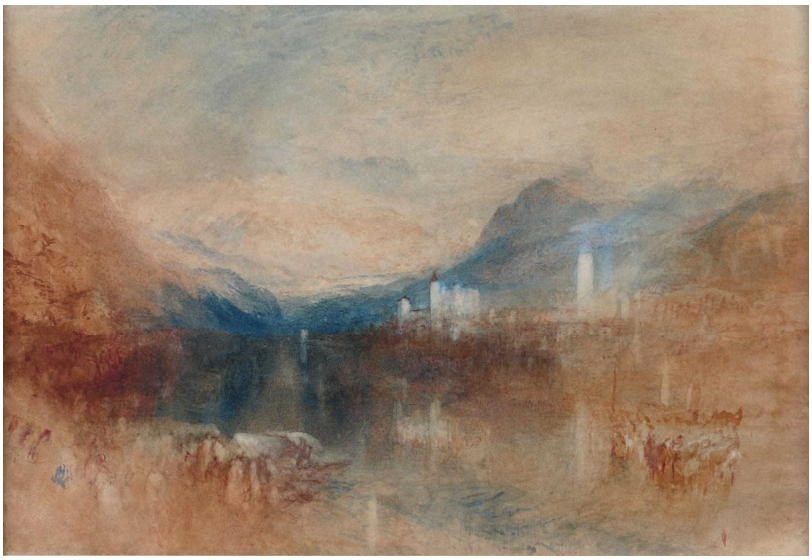
広報用画像

1. クロード=ジョゼフ・ヴェルネ《嵐の海》1740 年頃　静岡県立美術館蔵

2. オーギュスト・ロダン《考える人》（小型像）
1880 年　静岡県立美術館蔵

3. 赤城泰舒《ギターを弾く少年》1928 年
静岡県立美術館蔵

4.　クロード・ロラン《笛を吹く人物のいる牧歌的風景》1630 年代後半　静岡県立美術館蔵



5.　ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《パッランツァ，マッジョーレ湖》

5. 原勝郎《静物（洋梨と壺）》1950 年頃　静岡県立美術館蔵

「センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術」

宛先：静岡県立美術館　　（広報担当）学芸課　南　／　総務課　深澤　宛
E-mail：webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

■　本票に必要事項をご記入のうえ、上記メールアドレス宛に本票を添付してお申し込みください。

【画像ご使用に際してのお願い】
＊画像データはメールにてお送りします。
＊画像は本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
＊使用後のデータは破棄していただきますようお願いいたします。
＊画像への文字載せ、トリミングはできません。
＊クレジットを必ず明記してください。
＊基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
＊掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を１部ご寄贈くださいますようお願いいたします。

貴社名：　　媒体名：

ご担当者名：　　発行・放送予定日：

ＴＥＬ：　　発行部数：

ＦＡＸ：　　定価：

E-mail：　　掲載予定コーナー名等：

連絡欄：

＜広報用画像に関する問合せ先＞
下記までお電話ください。
静岡県立美術館
総務課 ： 054-263-5755
学芸課 ： 054-263-5857